

新エネルギー発電設備事故対応・構造強度 ワーキンググループ（第 28 回）－議事要旨

日時：令和 3 年 9 月 9 日（木） 15：00～17：00

場所：Microsoft Teams 開催

出席者：

<委員>

前田座長、青木委員、石原委員、植田委員、奥田委員、貝塚委員、河井委員、熊田委員、西尾委員、弘津委員、山本委員（五十音順）

<オブザーバー>

木村 一般社団法人住宅生産団体連合会 先進技術部長
久保 一般社団法人日本小形風力発電協会 理事長
柴田 一般社団法人日本風力発電協会 技術部長
山谷 一般社団法人太陽光発電協会 事務局長

議題：

- (1) 的山大島風力発電所台風 9 号・10 号によるブレード折損事故に関する報告（継続）
- (2) JRE 酒田風力発電所の風車火災事故に関する報告について（継続）
- (3) 輪島コミュニティウインドファームのブレード破損事故に関する報告について（継続）
- (4) その他（報告）

議事概要：

- (1) 的山大島風力発電所台風 9 号・10 号によるブレード折損事故に関する報告について
 - 株式会社的山大島風力発電所より、資料 1 に基づき前回(3月3日)の指摘事項に対する回答、事故の原因及び再発防止対策について報告が行われた。
 - 委員からは、電源喪失時の対応が不十分であること、さらに、強風が予想される場合にローターを遊転させること及び台風時のブレードピッチロックをすることについて、事業者で判断するのではなく、メーカーにそれらの対応で問題ないかを確認すること等が指摘され、次回 WG で引き続き審議を行うこととなった。
- (2) JRE 酒田風力発電所の風車火災事故に関する報告について
 - 合同会社 JRE 酒田風力より、資料 2 に基づき前回(5月28日)の指摘事項に対する回答、事故の原因及び再発防止対策について報告が行われた。
 - 事故の原因は、長期間運転を継続してきた中で塩分、粉塵等がハブ制御盤の端子台及びその周囲に蓄積したことや脆化によるクラック（ひび割れ）等により、複数の微小

地絡電流が発生し、対地を通し短絡に波及して火災に至ったと推定された。再発防止対策として運用面においては、点検項目に 24 及び 27V 回路の絶縁抵抗測定を追加し、点検頻度を年次から半年へ増やすこととした。設備面においては、ハブ制御盤内の既設ブレーカーを交換するとともに、電源の戻り側へブレーカーを追設。さらに、延焼拡大防止のため、同制御盤の扉が脱落しないようにネジを取付けることとした。

○これらについて委員から了承が得られ、本件については本報告をもって審議を終了した。

(3) 輪島コミュニティウインドファームのブレード破損事故に関する報告について

- 能登コミュニティウインドパワー株式会社より、資料 3 に基づき前回(5月28日)の指摘事項に対する回答、事故の原因及び再発防止対策について報告が行われた。
- 主な事故の原因は、現地駐在技術員の亀裂の見落とし及び経過観察不足であり、それによりブレードの亀裂が進展しブレード破損に至ったと推定された。再発防止対策として、運用面においては、重点観察範囲を追加設定し、4 方向から写真を撮影、報告時には写真を添付し、さらに 24 時間積算運転後にブレードを再確認することを点検手順マニュアルに追加することとした。また、保安停止解除の判断は、現地駐在技術員ではなく、メーカーの保守点検作業の講習を受けた有資格者が行うこととし、それを受けて電気主任技術者が最終判断を行うこととした。設備面においては、確認用の PC を点検現場に持ち込み、解像度の高い画面にてブレードの状況を確認することとした。
- これらについて委員から了承が得られ、本件については本報告をもって審議を終了した。

(4) その他(報告)

- 事務局より、資料 4 に基づき令和 3 年度の大雨・台風等の自然災害による太陽電池・風力発電設備の被害状況及び土砂災害警戒区域等に立地する太陽電池発電設備への対応について報告を行った。

次回ワーキンググループは改めて調整させていただく旨を連絡し、閉会。

問い合わせ先：

経済産業省産業保安グループ電力安全課

電話 : 03-3501-1742

FAX : 03-3580-8486